

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171000161
法人名	医療法人 清友会
事業所名	グループホームやどりぎ
所在地	佐賀市大和町大字久池井1635番地 (電話) 0952-51-2821

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年6月25日

## 【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て(一部三階)
------	--------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 760 円			

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.9 歳	最低	66 歳	最高	85 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	清友病院 ・ 野口クリニック ・ 小川歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の中に建つ民家改修型のホームである。広い庭園には桜・梅・柿の木が植えられ、梅は入居者と一緒に梅干・梅ジュースに加工されて食卓にのぼっている。庭には菜園もあり、居間からは野菜の成長が日々確認できて収穫の楽しみにつながっている。庭の木を訪れるがちがらすや鶯・ひよどりなどの野鳥は、入居者の憩いのひと時につながり、ゆったりとした生活が感じられる。経営母体が病院で、軽い病変や不安にも即対応でき、相談しやすい事が家族の安心につながっている。法人内にグループホームが2箇所あり、互いに情報交換や交流を通してサービスの質の向上に努めている。職員は明るく笑顔を絶やさず、入居者との会話を大切にして入居者が楽しく過ごせるように支援を心掛けているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果は、職員検討会や運営推進会議で取り上げ、改善課題となったものは検討を重ねサービスの改善に活かしている。課題となった入居者と職員との一緒の食事は、行事食やおやつをできる限り全員で頂くように改善している。日常的な外出支援は、庭を活用しての戸外活動を増やしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しにつなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域住民や入居者・家族・地域包括支援センター職員などの参加を得て2ヶ月に1回開催されている。ホームの活動や行事計画を報告し、議事録等も残されている。運営推進会議では外部評価の結果を伝え、事業所の取り組みを説明している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の日常の様子や活動を撮った写真アルバムを作成し、家族の面会時に入居者情報として活用している。重要事項説明書に苦情等申立先を明記するとともに、運営規程に苦情処理手順を明記し、家族に説明している。管理者や職員は、家族の面会時には話をして情報交換する事を心掛けている。頂いた要望等は検討し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、回覧板も回ってきている。地域の清掃活動や区役に参加しているが、地域や地元の人との日常的な更なる交流を期待したい。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者に寄り添い心がこもったケア「ハートケア」を心掛け、生活を支える基本は「笑顔」であり地域とも笑顔で付き合うことを意識した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内複数個所に理念を掲示し、理念の共有に努めている。管理者と職員は日々の業務を通して理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、回覧板も回ってきている。地域の清掃活動や区役に参加しているが、地域や地元の人との日常的な交流までには至っていない。	○	地域密着型サービスの役割を考えた地域住民との双方向の関係が築かれ、一層の関わりができる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、職員検討会や運営推進会議で取り上げ、改善課題となったものは検討を重ねサービスの改善に活かしている。指摘された入居者と一緒の食事は、行事食やおやつをできる限り全員で頂くように改善した。日常的な外出支援は、庭を活用しての戸外活動を増やしている。自己評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りにつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域住民や入居者・家族・地域包括支援センター職員などの参加を得て2ヶ月に1回開催されており、ホームの活動や行事計画を報告し、議事録等も残されている。運営推進会議では外部評価の結果を伝え、事業所の取り組みを説明している。	○	自己評価や外部評価の効果を高めるために、評価で明らかになった課題への取り組みや改善にむけたモニター役になってもらうなど、報告や情報交換にとどまらない双方向の会議になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営母体の法人が行政との窓口になっており、ホーム独自では行政の担当者との交流は行われていないが、情報が伝わり相談できる体制はできている。問題点や不明なことがあれば、法人本部を通して相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日常の様子や活動を撮った写真アルバムを作成し、家族の面会時に入居者情報として活用している。利用料の請求書発送時にホーム便りや運営推進会議録を同封して、ホームでの生活を報告している。さらに、遠方の家族には電話で連絡をとり情報交換している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等申立先を明記するとともに、運営規程に苦情処理手順を明記し家族に説明している。管理者や職員は、家族の面会時に話をして情報交換する事を心掛けている。家族等から頂いた要望等は検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人本部において決定されるが、職員と入居者の馴染みの関係を重視し、職員の異動は最小限に抑えられている。異動がある時は入居者の混乱を最小限に抑えるよう職員の配置等に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の内部研修や法人内グループホーム2ヶ所の合同研修会、外部の研修受講など研修の機会が確保されている。外部の研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すれば勤務の変更などの配慮がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所として地域の同業者とのネットワークづくりや勉強会はないが、個人的に同業者と交流して情報交換や相互訪問をしている職員はいる。法人内の職員とは勉強会や交流の機会を多く持ち、活動を通してサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が入院先や入所先を訪問したり、入居前にホームの見学を通して十分な説明をし、入居につなげている。入居後はその環境に慣れるまでは職員がよく話をして見守りを十分にするなど、職員やホームの雰囲気に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活体験や裁縫・着付けなど職員は入居者から学ぶことも多くあり、支え合う関係が築かれている。職員は入居者との会話の中から本人の思いを感じ取り、喜怒哀楽を共有するように努めている。また、入居者から教えてもらう場面が少しでも多くなる様、声掛けなども工夫している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活を通して入居者と会話する事を心掛けており、本人の思いや意向を汲み取るように努めている。希望や意向を伝えることが困難な入居者には、顔の表情や態度から察したり、家族から情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族から要望を聞いた上で、職員全員と法人担当者等が話し合って具体的な介護計画が立てられている。職員は日々のケアの中で入居者の変化や異常を敏感に感じ取るよう心掛け、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化があった時はその都度ケアマネージャーや管理者・職員と話し合いが持たれ、見直しが行われている。毎月サービス担当者会議を開催し、現状に即した計画の見直しにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業母体が病院であり医療連携体制ができていて、軽い病変でもすぐに連絡をとり受診できるように支援されている。家族や本人の要望で、通院や買物・美容院利用などの支援も柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医受診の継続を支援し、安心して医療を受けられる体制ができています。通院などの送迎は入居者や家族の要望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期対応の指針があり、契約時に家族と話し合い、説明して同意を得ている。入居者の状態に合わせて家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と職員・主治医は方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃から理念を念頭に置き、笑顔で挨拶する事と言葉づかいを心掛けており、入居者の尊厳を大切にされた対応がなされている。個人情報の記録簿はプライバシーに配慮され適切に保管されている。写真など個人が特定できるものは特に慎重に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決っているが、それにとらわれる事無く、入居者の希望を大切に支援を心掛けている。起床時間や食事の時間・場所、日中活動への参加などは自由で、入居者のペースに合わせた支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みを聞きながら立てられ、入居者の要望で急な献立変更にも対応している。食事の下ごしらえや配膳・後片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。職員は食事介助や見守りをして側に居るが、食事は別に摂っている。	○	共に暮らしている家族の一員として、職員と入居者が同じ食事を一緒に摂れるような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望がある場合は毎日の入浴が可能である。入居者と一緒に入浴剤を選んだり、シャンプー・リンス・トリートメントなどは入居者の好みの物を揃えるなど入浴が楽しみになるような工夫もされている。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、日時を変えるなどして対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物たたみ、配膳・下膳・食器の収納・テーブル拭き・ボタン付け・着付け・カレンダー当番など入居者それぞれに楽しみごとや役割があり、職員は見守りながら支援している。七夕飾りを作ったり、花火や恵方巻き・季節の行事・お花見など楽しい気晴らしの支援もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩・公園行きなど入居者が希望されれば職員は出来る限り支援している。庭には梅や桜・柿の木などが植えられ、庭で花見や日光浴・庭園内散歩などの戸外活動をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全上の理由から玄関や庭に面した居間・居室の鍵は常時施錠されている。入居者に散歩や外出希望がある時、職員は同行するなど支援している。	○	入居者の安全を確保しながら、日中鍵をかけないですむ更なる工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人本部において防災訓練や消火器の使用訓練等が実施されており、職員は参加している。事業所内においては、防災設備点検はあるが避難誘導訓練は行われていない。	○	災害は24時間いつでも起こる可能性を考え、昼夜を通じて様々な発生時間を想定した避難誘導訓練が望まれる。また職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域の人々の参加や協力を得ての避難訓練の実施も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食毎に記録し、一人ひとりにあった食事支援につなげている。献立は法人の管理栄養士の指導を受けており、栄養バランスの把握はできている。水分摂取を心掛け、1日の摂取量を記録してその人に合った支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールは庭に面して明るく、ホールから桜や梅・金木犀など季節の花見が楽しめている。共用の空間には季節の花や手芸品・カレンダーが飾られて季節感を感じる雰囲気作りがなされている。日差しが強い時はカーテンで調節するなど入居者にとって不快な音や光がないように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は希望の品の持込みが可能である。管理者は家族や本人に、自宅で使用していたり使い慣れた品の持込を勧めている。テレビやラジオ、机・椅子・ソファ・ダンス・マッサージチェア・仏壇などを持参している入居者もある。写真や手芸品などが飾られ、その人らしい居室作りが支援されている。		